

問1 約1万年前に地球の温暖化が進んで海面が上昇し、日本列島が形成された時期の生活の様子として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年

山口県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 地面を掘り下げた竪穴住居に住み、弓矢を用いた狩猟や木の実の採集、魚を中心とした生活を営んでいた。 | 2. 大陸から伝わった稲作が本格的に広まり、収穫した米を保存するために高床倉庫が作られるようになった。 | 3. 強力な支配者が現れ、自らの権威を示すために巨大な古墳を築き、その周囲に埴輪を並べるようになった。 | 4. 各地で大規模な灌漑施設が整えられ、太陽暦を用いて農作業の時期を管理する生活が始まった。 |
|---|---|---|--|

問2 縄文時代の人々の生活や文化について、食料の確保方法とその際に用いられた道具の組み合わせとして最も適切なものを次の中から選んでください。 (2019年 佐賀県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 狩りや採集で得た食料を煮炊きしたり保存したりするために、縄目などの文様がついた土器が用いられた。 | 2. 本格的な稲作が始まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や、祭祀のための銅鐸が用いられた。 | 3. 大陸から伝わった青銅器や鉄器を使い、大規模な開墾を行うことで、余剰生産物を蓄えるようになった。 | 4. 牛馬を利用した耕作や二毛作が広まり、収穫した作物を都市の市場で売買する生活が一般的となった。 |
|---|--|--|---|

問3 日本の歴史において、縄文時代に定住生活が始まり、生活が安定する中で普及した、表面をみがいて形を整えた石器を何と呼びますか。 (2018年 徳島県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------|---------|---------|-------|
| 1. 青銅器 | 2. 磨製石器 | 3. 打製石器 | 4. 鉄器 |
|--------|---------|---------|-------|

問4 北海道やその周辺地域において、樹皮を加工した繊維で織られた「アットゥシ」と呼ばれる伝統的な衣服や、独自のアイヌ語といった文化を継承してきた、法律によって日本の先住民族と明記されている人々を何と呼びますか。 (2026年 埼玉県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------|--------|----------|---------|
| 1. 琉球民族 | 2. 渡来人 | 3. アイヌ民族 | 4. 大和民族 |
|---------|--------|----------|---------|

問5 縄文時代において、人々が定住生活を送る中で作り出した遺物のうち、表面に縄目の文様が見られることが多く、食物を煮たり保存したりするために活用された道具の名称とその特徴として適切なものはどれですか。 (2024年 熊本県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------------------------|----------------------------|-------------------------|-------------------------------|
| 1. 薄手で赤褐色をしており、文様が少なく実用的な弥生土器 | 2. 厚手で黒褐色をしており、低温で焼かれた縄文土器 | 3. 高温で焼かれた灰色で硬い、貯蔵用の須恵器 | 4. 古墳の頂上や周囲に並べられた、人物や馬の形をした埴輪 |
|-------------------------------|----------------------------|-------------------------|-------------------------------|

問6 佐賀県の東名遺跡（ひがしみよういせき）では、約8千年前の地層から植物の繊維で編まれた国内最古級の「編みかご」が発見されました。このような発見から推測される、当時の人々の生活習慣や信仰に関する記述として正しいものを次の中から選んでください。 (2019年 佐賀県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 仏教の教えが広まり、国家の安泰を願って各地に国分寺や国分尼寺が建立された。 | 2. 自然の恵みに頼った生活を送っており、魔よけや豊かな収穫を祈るために土偶（どぐう）が作られた。 | 3. 有力な王が各地を支配しており、その権力を象徴するために巨大な前方後円墳が造られた。 | 4. 大規模な灌漑設備を整えて稲作を行い、村同士の争いに備えて周囲に堀を巡らせた環濠集落で暮らした。 |
|--|---|--|--|

問7 日本の東北地方、現在の青森県に位置する縄文時代を代表する遺跡について、その名称と時代の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2023年 徳島県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------------|------------------|------------------|------------------|
| 1. 登呂遺跡 — 弥生時代 | 2. 三内丸山遺跡 — 弥生時代 | 3. 三内丸山遺跡 — 縄文時代 | 4. 吉野ヶ里遺跡 — 弥生時代 |
|----------------|------------------|------------------|------------------|

問8 縄文時代における人々の生活環境の変化と、道具の使用に関する説明として最も適切なものはどれですか。 (2016年 富山県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 大陸から稲作が伝来したことで、収穫した穀物を大量に貯蔵するための薄くて赤褐色の土器が広く普及した。 | 2. 有力な首長が各地に出現し、集落を守るための環濠や、身分を象徴する豪華な副葬品としての土器が作られた。 | 3. 氷河期の影響で大型の獣を追う移動生活が中心となり、獲物を仕留めるために磨製石器が初めて登場した。 | 4. 気候が温暖になり動植物の食料が豊富になったことで定住が進み、食料の加工や保存のために土器が作られた。 |
|--|---|---|---|

問9 縄文時代の遺跡からは、女性をかたどったとされる土偶など、当時の精神文化を反映した遺物が多く発見されています。これらの遺物が作られた目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。 (2024年 熊本県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|---|------------------------------------|
| 1. 自然の恵みに感謝し、食べ物の豊かさや安産などを祈るために作られた | 2. 大陸との交易において、有力者が自分の富や権力を誇示するために作られた | 3. 身分の高い人物が亡くなった際、その墓である古墳に副葬品として納めるために作られた | 4. 稲作が普及し、収穫した米を保存するためのまじないとして作られた |
|-------------------------------------|---------------------------------------|---|------------------------------------|

問10 縄文時代における食生活の工夫と、それに伴う住環境の変化について述べた文として正しいものはどれですか。 (2016年 愛知県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 大陸から伝わった稲作が広まったことで食料の余剰が生まれ、それを保管するために高床倉庫が普及した | 2. 氷河期が終わり温暖になったことで大型動物が絶滅したため、移動を繰り返しながら洞窟で暮らすようになった | 3. 青銅器や鉄器などの金属器を用いて効率的に食料を生産するようになり、外敵を防ぐための環濠集落が作られた | 4. 狩猟・採集による食料確保に加え、土器で煮炊きを行うことで食べられるものが増え、竪穴住居での定住が進んだ |
|--|---|---|--|

問11 縄文時代に作られた、人間をかたどった特徴的な土製品である「土偶」について、この道具が作られた主な目的として最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2024年 鹿児島県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 食料を保存したり、煮炊きを行うするための日常的な容器として作られた | 2. 古墳の周囲に並べ、死者の霊を慰めたり境界を示したりするために作られた | 3. 豊かな収穫や安産などを祈るための、信仰の道具として作られた | 4. 大陸から伝わった稲作の技術を広めるための儀式的道具として作られた |
|--------------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|

問12 北海道にはその土地の自然環境や地形に由来する地名が多く残されています。例えば、世界自然遺産にも登録されている「知床（しれとこ）」という地名は、ある先住民族の言葉で「大地の先」を意味する「シリエトク」という言葉に由来しています。この独自の言語や文化を持ち、北海道や千島列島などに古くから住んでいる民族の名称を答えなさい。 (2024年 山形県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------|---------|------------|----------|
| 1. 渡来人 | 2. 琉球民族 | 3. 蝦夷（えみし） | 4. アイヌ民族 |
|--------|---------|------------|----------|

問13 石器時代の道具や生活の変化について述べた文として、縄文時代の特徴を正しく説明しているものはどれですか。 (2018年 徳島県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. マンモスなどの大型の獣を追うため、移動生活に適した打製石器のみを使い続けた。 | 2. 氷河期が終わり温暖な気候になる中で、石をみがいた磨製石器や土器が使われ始めた。 | 3. 青銅器や鉄器が大陸から伝わり、石器は次第に祭祀用の道具へと変化していった。 | 4. 本格的な水田稲作が広まったことで、石包丁を用いた穂首刈りが一般的になった。 |
|---|--|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 地面を掘り下げた竪穴住居に住み、弓矢を用いた狩猟や木の実の採集、漁を中心とした生活を営んでいた。	氷河時代が終わり地球が温暖化したことで、海面が上昇して日本列島が大陸から切り離されました。この時期から始まる縄文時代では、人々は定住を始め、地面を掘り下げて床とした竪穴住居に住むようになりました。自然環境の変化によって出現した中小動物を射止めるための弓矢が普及し、植物の採集や、骨角器を用いた漁など、自然の恵みを多角的に利用する生活へと変化しました。稲作や高床倉庫は後の弥生時代、古墳は古墳時代の特徴です。
問2	答え 1 狩りや採集で得た食料を煮炊きしたり保存したりするために、縄目などの文様がついた土器が用いられた。	縄文時代は、氷河期が終わり温暖な気候になったことで、木の実の採集や弓矢を用いた狩猟が盛んになった時代です。採取した植物性の食料を煮たり、保存したりするために土器が作られ、表面に縄目の文様が見られることが多いことから縄文土器と呼ばれます。稲作や青銅器、鉄器の使用は、その後の弥生時代の特徴です。
問3	答え 2 磨製石器	旧石器時代には石を打ち砕いただけの打製石器が使われていましたが、縄文時代に入ると用途に合わせて表面をみがき、形を整えた磨製石器が普及しました。この変化は、定住生活の開始や土器の使用といった生活様式の大きな転換と密接に関わっています。
問4	答え 3 アイヌ民族	北海道とその周辺に独自の文化を築いてきた人々で、2019年に施行された「アイヌ施策推進法」により、初めて法的に「先住民族」と位置づけられました。樹皮を用いるアットウシのほか、サケ漁や狩猟を中心とした生活様式を持ち、自然界のあらゆるものに魂が宿ると考える独自の精神文化を持っています。
問5	答え 2 厚手で黒褐色をしており、低温で焼かれた縄文土器	縄文時代の人々は、定住生活を営む中で土器を発明しました。この土器は低温で焼かれるため厚手で黒褐色になるのが特徴です。煮炊きが可能になったことで、それまで食べられなかった植物の灰汁（あく）を除いたり、固いものを柔らかくしたりして食べられるようになり、食生活が安定しました。
問6	答え 2 自然の恵みに頼った生活を送っており、魔よけや豊かな収穫を祈るために土偶（どぐう）が作られた。	東名遺跡で発見された編みかごは、縄文時代の人々が身近な植物を利用して食料の採集や運搬を行っていた高い技術を持っていたことを示しています。この時代の生活は自然環境に強く依存していたため、自然の力を畏れ、豊かな収穫や安産などを祈る呪術的な道具として土偶が盛んに作られました。古墳の造営や環濠集落、国分寺の建立は、より後の時代（古墳時代、弥生時代、奈良時代）の出来事です。
問7	答え 3 三内丸山遺跡 ― 縄文時代	青森県で発見されたこの遺跡は、縄文時代における日本最大級の集落跡です。大型の掘立柱建物や多数の竪穴住居の跡が見つかっており、当時の定住生活の様子を詳しく伝える重要な史跡です。佐賀県の吉野ヶ里遺跡や静岡県県の登呂遺跡は、いずれも弥生時代の代表的な遺跡であり、縄文時代には含まれません。
問8	答え 4 気候が温暖になり動植物の食料が豊富になったことで定住が進み、食料の加工や保存のために土器が作られた。	縄文時代は地球の温暖化に伴い、木の実などの植物性食料や魚介類が安定して得られるようになりました。これにより人々は竪穴住居を作って定住するようになり、硬い木の実を煮てアクを抜いたり、煮炊きをしたりするための道具として土器が重要な役割を果たすようになりました。選択肢にある稲作の普及や薄手の土器（弥生土器）は、その後の弥生時代の特徴です。
問9	答え 1 自然の恵みに感謝し、食べ物の豊かさや安産などを祈るために作られた	縄文時代は、狩りや漁、採集による生活であり、自然の状況に食料確保が左右されました。そのため、土偶などの遺物は、子孫繁栄や獲物の増加、病気の回復といった切実な願いを込めた呪術的な道具として用いられたと考えられています。
問10	答え 4 狩猟・採集による食料確保に加え、土器で煮炊きを行うことで食べられるものが増え、竪穴住居での定住が進んだ	縄文時代には、土器を使って食物を加熱調理（煮炊き）する技術が普及しました。これにより、以前は消化できなかったデンプン質の木の実なども食用にできるようになり、食生活が安定しました。その結果、人々は一箇所に留まって生活するようになり、竪穴住居による集落が形成されました。稲作や高床倉庫、金属器の使用は、その後の弥生時代の特徴です。
問11	答え 3 豊かな収穫や安産などを祈るための、信仰の道具として作られた	土偶は縄文時代を代表する土製品であり、その多くは女性を模して作られています。当時の人々は、自然界のあらゆるものに精霊が宿ると信じており、食料となる植物や動物の豊作、あるいは子孫繁栄や安産を願うための信仰の対象として土偶を用いていました。古墳時代に古墳の周囲に並べられた埴輪（はにわ）と混同しないよう注意が必要です。
問12	答え 4 アイヌ民族	北海道や樺太、千島列島などの先住民族であるアイヌの人々は、自然界のあらゆるものに魂が宿ると考える独自の文化を育んできました。彼らの言語であるアイヌ語は、北海道の多くの地名の語源となっており、「知床」が「シリエトク（大地の突き出た先）」に由来するほか、札幌や小樽などもアイヌ語に漢字を当てはめた地名として知られています。
問13	答え 2 氷河期が終わり温暖な気候になる中で、石をみがいた磨製石器や土器が使われ始めた。	約1万年前に氷河期が終わり気候が温暖になると、日本の植林や動物の生態が変化し、人々は定住生活を営むようになりました。この時期に登場したのが、より精巧な磨製石器や、食料の調理・保存に欠かせない土器です。打製石器は旧石器時代から継続して使われましたが、磨製石器の普及は縄文時代の大きな技術的特徴です。